

# 第五回英語スピーチコンテスト報告

外国语学部 英語英文学科2年 今 村 豊

**平成十七年十一月十一日(土)**、神奈川大学の図書館地下演習室において、第五回英語スピーチコンテストが行われました。この催しは英語英文学科の主催と人文学会の協賛によるもので、事前の選考によって厳選された十一名の出場者が英語を用いて「思ひ思ひのテーマを演説する」というものでした。

午前中のプログラムで出場者はスピーチを行ない、午後には審査員による結果発表と、神田外語大学助教授である、青沼智先生によるアンケート(総評)が行われました。三名の審査員による一位から三位までの受賞者が決められ、観客達のアンケートの集計から、オーディエンス賞が決められます。ちなみにこの日の来場者は一百八十名ほどでした。

午前、午後ともプログラムを終えて振り返ってみると、この第五回スピーチコンテストは成功

だつたのだなと思いました。コンテスト自体の進行や、一切の司会者によつて運営しなくても、必ず運ばれました。スピーカー(演説者)の思はせれあれど、スピーカーを語りましたといつては、紛う方無い成功だったのでしょうか。それも事前の綿密な計画があつたからに他なりません。

そして、今回のスピーチコンテストを作り上げたのはそれに携わった人々です。出場者や舞台照明、音響、進行等を行つたスタッフのスピーチを成功させたのは、紛れもない事実です。しかし、それだけではあります。もう一つのコンテストが唯一無二になりました。それはその要因とは何か。端的に述べるならば、情報社会の進化です。果たしてこれがむづかしい意味であるかは、後述するとしておきますが、どうしてスピーチが行われたのかを



表を見てお解りのよう、「十一人も出場者がいる」と、それぞれに思ひ思ひの内容を語つてしまふ。やつした多くのスピーチにも概して通ります。ぜひこの傾向があります。そして、それを説明するために、印象に残つた内容や興味深い内容のスピーチだけをかいつまんで紹介します。

表を見てお解りのよう、「十一人も出場者がいる」と、それぞれに思ひ思ひの内容を語つてしまふ。やつした多くのスピーチにも概して通ります。ぜひこの傾向があります。そして、それを説明するために、印象に残つた内容や興味深い内容のスピーチだけをかいつまんで紹介します。

留学生で出立つた先生方に刺激を受けて、彼女も教師を目指そうと心に決めます。このスピーチの場合、目標するものが生まれたのはスピーカー自身の勇気のおかげだと思ひます。夢のはつきりしなかつた自分を変えため、アメリカへ渡るその勇気。それが、彼女をして将来への力強い決心をさせる原動力となつたのでしよう。

更に、十一人の伊藤さんも、自分のやりたい仕事を見つける事の重要さを説いています。彼女の場合は、やはり教師にならうことを自分の夢として挙げます。それから、自分のやりたい事を見つけたはづつしたら良いかと、つ事を話します。先ほどの田中さんは自分の行動をもつて夢を抱くに至つましたが、伊藤さんのスピーチは思ひ切つて行動する前に、自分のやりたい事をはつきりさせるための方法を教えてくれます。彼女は、自分が何をしたいのか、何が好きなのか、何がいいとひたすら思つる直し、考へるべきだと言ひます。そうして見えてきた目標が日常生活を生きる上でも大切なことなのだと主張しました。

## 第五回英語スピーチコンテスト報告

一人目の池田さんのスピーチは概要にあるように、本人の目標す教師という職業に就くための、教育実習の体験を語ったものですが、このスピーチにおいて最も強調されたのは、やはりスピーカーの持つ教師にならうとする」とくの意志でしよう。初めは実習で受け持つたクラスの生徒達と「思ひ思ひ」と理解しあえなかつたり、授業の段取りを間違えたり、とつた失敗を語ります。しかしやがて、挨拶を通して生徒と親しくなつて「くじ」ができたのです。この経験によつて、スピーカーは授業の方法を学ぶだけでなく、子供達との「コミュニケーション」の方法も学ぶことができたと語っています。そしてそこで、改めてスピーカーは教師になりたいと語ります。様々な経験曲折の体験を経て、再び固ある夢への決意はスピーチを聴いていた人々にも充分に伝わつたと思います。

また、同様に十人目のスピーチである田中さんも教師になると、夢を語ります。中学校の時は自分のやりたことや、将来への展望が曖昧だったスピーカーは、高校へ入学してから、思い切つてアメリカへの留学を試みたのです。そして

つしやうひの必要があります。そつして共感できる伝え方をしないと受け手はスルーチ内容をただの他人事だと見なしてしまし、それ以上理解を止めてしまふ可能性があるからです。ですから「聴き手」に解りやすいような具体例を挙げたり、できるだけ共感を覚えるような言葉を用いて話したりしないと、一方的に語るだけでは聴衆の注意を引くことは至らぬのです。

おしえて、社会の問題を扱うスルーチは共感という点では先述のタイプよりも有利です。何故なら、社会問題の身近な部分を理解してやればそれが社会に根付くものである以上受け手も

たせるじぶんじゅめあ。

にして構成されており、それ故に結論や自分の意見を具体的に伝えることができます。あくまでも自分の事を他者に伝えるので、自分の伝えたい事が何なのかさえ明確ならば、自分の体験の記憶等を加えて行くことで、より説得力を持

も、加害者を責めきれないばかりに、周囲へ相談する」と躊躇つてしまつからです。そしてスピ

分のやりたい事を持て生きてる分、有意義だと考えたのです。ですから、細井君のペーパーのタイトルは「生活」は意志や目的が必要だ」ということを意味しているのです。

「Jのペーパー、将来の夢や皿のやりた「仕事」などをテーマとした「チがある一方、別のパターン」があります。そのパターンとは、社会の様相や問題を捉えてそれを観客に訴え、理解を求めるものです。

例えば五人目のペーパーである豊田さんではある女性が交際相手から暴力行為を受けているのを偶然目撃したことを契機に、親しい間柄で行われる暴力は周囲には認識されにくくと

テーマは六人目のスピーカーである細井君のスピーチのテーマにも通底するものです。細井君は奄美大島で休暇を過ごして、た時、当初はとても居心地良く感じていたそうです。しかし、やがて、その生活に飽き始めて、自分に気がつきま

に至るまでが、ありふれた方法では懶らく受け手も聞く気を失つてしまつてしまふ。それを回避するために「少しでも興味を引くよくな」少し変わった論を纏り交ぜなければならぬのです。勿論、「これは奇を衒え」と「意味ではありませぬ。ただ、どんなにありふれた題材を取りあげても、ペースターが独自に考へた結論や主張が的確にスルーチに入つてはいけない」といふ事です。つまり、「のタイプのペースターの難しさは」、「あるのです。社会問題自体」とも規模の大きさ話すから、それをじっくり考へて、自分なりの結論を出すには多くの時間を

結論や論述の如何が如何であるかといった  
つかしながら、一からタイプにも難点はあ  
ります。一般化した問題は共感を得やすく述  
べます。そして同様に受け手も寄観的問題を  
見つめる視点を容易に共有できるので、一般的  
な印象をうけます。

からです。そうした一過的な行為によって貧困を解決するのではなく、もっと大きな視野が必要

りせなおさず、社会に散在する病理を訴えたものであり、暴力行為に対する普段の認識が如何に脆弱かを指摘しておるとも言えます。

「いつした社会の問題と認識を取り扱ったテーマのスピーカーは他にもあります。

七人目の星さんはスピーカーはインドへ訪れた際に日本の当たり前とした、物々との人々の現状について語った内容です。インドでは頻繁に目にすることの多い人々に対し、要求通りにお金を渡すべきなのかという問いかけがそこには含まれてます。そしてスピーカーが出した結論は、物々との人々に施しをするべきではないという事でした。例えお金をあげたとしても、その時は良いかも知れませんが、それが物々との原

「カーバーは、そのような躊躇が、結果的に加害者は勿論、被害者自身の価値を蔑むことにもなりかねない」と主張するのです。

「Jのペーパー」は、一見すると何事も問題無「」ような関係でも、暴力行為や傷害行為が存在す

さて、一つのペーストを完成させるにはどれだけの努力が必要かという事を少し説明してみます。しかも、こうして推敲を繰り返してでき

「われら」の傾向に大別することができます。  
先に挙げた、自分の将来の展望や、やつた「仕

セミナーの場合は、社会に伝えたくなる問題の認識を訴えかけるような論調であり、先生が挙げた、血の夢や希望を語るペーパーとは一線を画しています。自分の経験を元にして、その問題が社会といふのよりに關係して、そのよりに現れているかを伝えるのが、もう一方のペーパーの傾向です。十一人目のスピーカーである村上君の「人種差別を取り扱ったスピーチも、やはり」「アーティストでの留学体験を元にして、現地で感じた人種差別的な態度が、日本でもやはり見られ、世界の至るところで見られる」という主張をします。

以上のよつて、十一人のスピーチの中から、いづかの特徴的なものだけを抜き出して取りあ

要なのじよ。セレジアベーカーが提示したのは、イングランドの國のものを周囲の國家の援助によつて助けていく方法でした。そしてやの為には周囲の國や人々がイングランドの貧困の事実とその実態を認識する」とから始まる、とアレ



あがつた原稿を、今度は暗記しなければならず、重いはじつにしたジドスチャーリーズで言葉を紡ぐべきか、う事や、どうしたリーズで言葉を紡ぐべきか、と、この事を考えなければなりません。ほとんどの数分のペーパーの中で、多くの労力がつぎ込まれています。

いわして、あがつた数々のペーパーが今回、一通りの傾向に大別される事実については述べた通りです。では、これらの傾向を概観すべきか。

それは、この社会の情報伝達の手段の多様化です。既存の通り、エリート革命以降発達してきた情報化社会は、今もなお止まることなく成長しています。この存知の通り、エリート革命以降、情報化社会は、比較的早く現れました。そして、その一次的な影響が現れています。つまり、一見、無関係に思えるペーパーハンテスト等の間接的な物事にも影響が現れてくるのです。今回の傾向の根幹は、ここにあります。海外での体験を元にしたペーパーや、世間の出来事を題材としたペーパーが可能になったのは、極論すれば情報化社会の恩恵です。自分の夢に関わる情報も、

国際情勢の情報も、今では容易に入手が可能で

す。今までは知ることもできなかつた有益な情報を、簡単に知ることもできるようになったのです。結果、自分の将来の夢を実現するために役立つたり、視野を広げるために役立つたりできるようになりました。それが現象として、このペーパーハンテストに現れたのではないかと僕は思いました。

しかし、やつした情報化の影響だけで今回、のペーパーが構成されていくとも思ひません。確かに、ある情報は、労力で集められたうになり、そつやて手に入れた情報が元とまつたまま、即物的な影響はインターネットの普及にみるよつて、比較的早く現れました。そして、今、その一次的な影響が現れています。つまり、

受け取り如何に解釈するかは、情報を手に入れた本人次第なのです。情報を手に入れた先からは、自分で話を組み立てなければなりません。また苦労して組み立てた話を声に出して語るのも本人なのです。その意味で言えば、間違になく今回のペーパーハンテストを完成させる背景にあつたのが、情報化社会と、この抽象的なものであったとしても、それを形にしたのは、紛れもなく具体的なペーパーカー達出場者であり、それらを準備

し、実現したたくさんのペーパーカーの人々だと思いま

す。彼らが、なれば、今回のよつなペーパー、ペーパーハンテストには、唯一無二の創造そのものなのです。少なくとも僕には、そうとれました。

例え情報化社会が進み、個人が情報の波に途

方に暮れるよつな環境ができるあがつたとしても、人は決してその波に飲まれることを許さないで

します。彼らが創造を限りにむけて、彼らが創造を限りにむけて、

以上で、第五回ペーパーハンテストの報告を終ります。わざわざ最後まで読んでいただき、ありがとうございました。次回のペーパーハンテストには、是非、足を運んでみては如何でしょうか。

ペーパー内容等の確認をどうせ頂いた師岡先生、助かりました。ありがとうございました。

写真撮影日 平成十七年十一月十一日、	神奈川大学二号館地下
演習室にて	
写真提供元 神奈川大学英語英文学科	
専任講師 師岡淳也	